

令和元年度 高知市廃棄物処理運営審議会 会議録（要旨）

1 日時 令和元年 11 月 21 日（木） 14:00 から 16:00 まで

2 場所 高知市たかじょう庁舎 6 階会議室

3 出席者

〔委員〕

廃棄物処理運営審議会委員 13 名

〔事務局〕

環境部，環境政策課

〔環境部出席者〕

環境業務課，清掃工場，東部環境センター，廃棄物対策課

4 議題

- (1) 会長・職務代理者の選出
- (2) 第 3 次高知市一般廃棄物処理基本計画の取組状況について
- (3) ふれあい収集について

5 配布資料

- (1) 会次第
- (2) 高知市廃棄物処理運営審議会委員名簿
- (3) 資料① 一般廃棄物処理基本計画の概要等
- (4) 資料② 一般廃棄物処理の現状と課題
- (5) 資料③ 一般廃棄物処理施設の状況
- (6) 資料④ ふれあい収集について

- (7) 高知市清掃事業概要
- (8) 高知市のごみの出し方
- (9) 高知市ふれあい収集

6 決定事項

- (1) 委員の互選により，会長を選出
- (2) 会長の指名により，会長職務代理者を決定

7 審議事項

- (1) 第3次高知市一般廃棄物処理基本計画の取組状況について（資料①～③）
- (2) ふれあい収集について（資料④）

【質疑応答，意見】

審議委員： 高知方式の担い手不足，高齢化により町内会の負担が非常に大きくなってきている。ごみステーションの当番は，朝5時半に起きてステーションの管理や分別を行い，片付け終わるのが9時頃である。分別の種類も昔と比べると増えており作業量も多く，なり手がいないことが切実な問題になっている。こうした中，町内会の費用でごみステーションの当番を雇うところも増えてきているが，このような状況は，高知方式の基本を考えると疑問に感じる。ごみ問題に限らないが，行政と町内会は対等な立場であるという認識で，今後，市と覚書を結び，まちづくりを一緒にやっていくつもりである。市もそういう認識でこうした問題に取り組んでもらいたい。

⇒ 高齢化や人口減少社会を迎え，ステーションの管理の問題は全国的な課題となっている。本市でも将来的なごみ収集・処理システムの再構築に向けて検討するために，平成27年5月から7月にかけて，資源・不燃物ステーションの登録団体にアンケート調査を実施したところ，①ステーショ

ン管理の担い手不足、②不適正排出による登録団体の負担増、③自ら排出することが困難な世帯の増加 の3つの課題が判明した。こうした課題に対応していくため、本市は、ステーションの排出品目や可燃粗大ごみの戸別収集等について検討を行った。一方、地域で高齢化が進展し、排出困難者への対応が必要になったことから、将来的に可燃粗大ごみの戸別収集によって資源・不燃物ステーションの登録団体の負担を軽減させることを見据えて、まずは課題③自ら排出することが困難な世帯の増加への対応策としてふれあい収集に取り組むこととし、現在、試行収集を行っている。(事務局)

会 長： ふれあい収集の担い手は誰になるのか。

⇒ 現在のところ新たに人員や専用の車両を増やす予定はない。既存の人員や車両で対応する予定である。(環境業務課)

審議委員： ふれあい収集の制度があることを知って驚いた。現在、身内に民生委員にごみ出しの手伝いをしてもらっている者がいるが、民生委員の負担が増えているように感じる。ふれあい収集の申請件数は40件程度とのことだが、今後対象地域を拡大していくと市の方で対応できなくなる可能性はないか。また、対象者の要件として、「要介護1以上」とあるが、この要件が広がることはないか。

⇒ 対象地域の拡大後に件数がどれくらいになるか把握しきれないが、基本は通常ルートで収集で対応していく予定である。ただ、件数によっては専用の車両を用意するなど、柔軟な対応をしていく。対象者の要件については、資料④記載の要件に該当していない場合でも、現地調査で確認のうえ、認定委員会でふれあい収集が必要と判断すれば対応していく予定である。(環境業務課)

審議委員： ごみ処理にかかるコストを意識することも大事である。地域の努力により成り立っている高知方式であるが、近年ステーションの当番を外注していて、費用が発生しているという話もあった。ごみの処分には費用が発生する。経営している店舗でも、事業所ごみの処分にかかなり費用がかかっている。ごみ処理のコストの仕組みを知りたい。

⇒ 清掃事業概要の 20 頁にごみ処理原価を記載しており、表を見ていただくと、 $2,961,032 \text{ 千円} \div 123,952 \text{ t} = 23,889 \text{ 円/t}$ となっている。これは、ごみの収集から最終処分までにかかる費用が 1 t あたり 23,889 円であることを表している。また表には収集や中間処理など、各部門ごとにかかるコストも記載している。(事務局)

審議委員： 平成 29 年度の一般廃棄物処理実態調査によると、県民一人あたりの処理経費は、年間で 11,474 円となっている。

審議委員： コストを意識することは非常に大事である。現在、高知方式という名のもとに、地域でのごみの分別や管理は町内会が苦勞してボランティアで行っているが、民間なら人を動かすには通常コストがかかる。地域での分別や管理にかかるコストをこのまま町内会のバックボーンに頼ったままだと、高知方式が成り立たなくなる恐れがある。次期計画策定までの 3 年の間に、事務局には対応を検討してもらいたい。

基本的にはごみを出す人に管理する責任があると思う。まずは出す人がしっかり分別することが大事である。ごみを処理するには費用がかかるので、最低限の支払いは必要だが、ごみ処理費用を抑えるには、ごみを減らすことである。自社では、特に段ボールなどの資源ごみが通常のごみに混ざっていないか等、分別を徹底している。資源を大切にすることにもつながる。

審議委員： 高知方式について、もともとは昭和 51 年に市民からの不燃物収集の実施を望む声に応え、再生資源処理協同組合の協力により、登録制で資源・不燃物収集することになったのがはじまりである。ごみを管理する責任者は町内会ではなく、排出者本人及び資源・不燃物の登録団体が、責任をもって資源・不燃物を排出していた。当初は排出量が少なかったが、排出量の増加に伴い、高知方式のシステムに課題が生じてきた。また、日本は資源が少ない国であるため、各種リサイクル法が整備され、これに対応した形で現在、様々な資源が回収され、それぞれリサイクルされている。資源・不燃物の登録団体や町内会が、地域での分別や管理が難しくなってきた、もうできないというのであれば、有料でごみを集めるかという話にもなってくる。ただ各団体それぞれ事情があるので、最終的には各団体の判断にもなってくると思う。

また、ごみをたくさん出す人もいれば、あまり出さない人もいる。ごみ処理費用について結局は市民が負担しているので、このあたりの不公平感も課題である。分別の方法やリサイクルをどう行っていくか、戸別収集の話が出ていたが、有料の戸別収集で対応していくかなど、事務局が将来的なごみ処理システムをどう考えていくかである。

⇒ ごみの有料化の話が出たが、県内の高知市以外の市町村はすべて有料化されている。ごみの排出量の抑制及びごみ処理費用の公平な負担という観点から、過去にごみの有料化について議案を提出したこともあるが、経済的弱者への配慮などの理由により、最終的には議会で否決された。

次期計画の策定に向けて、様々な課題があるが、ごみの有料化も含めて検討していく必要がある。(事務局)

審議委員： 事業所ごみのコストについて話があったが、まずはどれくらい事業所ごみが出ているか経営者が把握している必要がある。生ごみは含水率が高いので食事を余らせない、ダンボールは分別して出すなど、排出抑制の工夫

や分別の徹底を行うことで、コストを抑えられる。また、外で食べた弁当等のごみを家に持ち帰って捨てたら家庭ごみになるが、コンビニ等で捨てた場合、コンビニ等が、事業所ごみとして処理費用を支払うことになり、事業所ごみの排出量、処理コストが増加する要因になる。経営者・従業員・お客さん等、各市民ひとりひとりがごみに興味を持つことで色々なことが変わってくる。

市がこういったことにも意識を向けて一丸となって行動することで、市民もごみに対する意識が変わるのでは。家庭ごみにおいても、プラスチック製容器包装を分別するのが面倒で可燃ごみに出してしまう人もいるが、市が自ら行動することで、市民ひとりひとりのごみに対する意識が変われば、新しい高知方式ができるのではないか。

審議委員： 以前、市が行っていたダンボールコンポスト市民モニターに参加したことがある。こういった取組が打ち上げ花火的で継続されていないように感じる。生ごみの堆肥化は全員ができることではないと思うが、水切りでのごみ減量などの啓発活動は、市に継続して取り組んでほしい。

審議委員： 個人・事業所・地域・家庭など各レベルでのごみの排出量の抑制が必要。「ごみは誰かが処分してくれる」ではなく、「受益者負担」を真剣に考えるべき時期である。

審議委員： ごみ問題は、切り口によって議論の方向性も違ってくるし、幅が広く、議論がしにくい分野である。今回は1回目ということで、事務局には今日出た意見をうまく整理してもらい、次につなげていってほしい。

審議委員： 普段、事業者としてごみを処理していく中でもっと安くならないのかと考えていたが、出し方を工夫すればごみの排出量を減らせると感じた。今後、排出量を少なくしていくということを自社の中でも話をしていきな

ら、ひとりひとりが意識してごみの減量を進めていきたい。

家庭ごみの有料化についても、次はそうなるかもしれない。ごみ問題について各市民がいい方向を向いて、より良い高知方式になればいいと思う。

会 長： 今回は第1回目ということもあり、幅広く意見を伺った。循環型社会形成のための課題や意見も多く出て、その中で、行政のコストや地域のコストをどうマネジメントしていくかという視点からの議論も行った。今日は様々な意見やアイデアが出たが、事務局には次期計画に直接反映していくところと、広く受けていく部分とを整理して次につなげてもらいたい。

⇒ 様々な意見をいただき、感謝申し上げます。日々の業務の中に反映していくべきところは反映していく。また、大きな課題に対しての意見もいただいているので、解決に向けて方策を検討していきたい。(事務局)